

平成28年度企画展

とっとり県民カレッジ連携講座
第11回中国四国地区アーカイブズウィーク連携事業

鳥取大火の 初公開写真



空撮された鳥取大火後の市街

平成28年

4月21日(木)～6月5日(日)

4月29日(金)、30日(土)、5月3日(火)～5日(木)は休館

●開館時間 午前9時～午後5時

●場所／お問い合わせ 鳥取県立公文書館 (展示コーナー)

鳥取市尚徳町101 電話:0857-26-8160

<http://www.pref.tottori.lg.jp/kobunsho>

入場
無料

鳥取大火とは

昭和27（1952）年4月17日午後2時55分頃、鳥取市吉方の市営動源温泉付近から出火^{*1}。この日は、フェーン現象による強い南風が吹いていたため、火は瞬く間に燃え広がり、旧市街地の3分の2を焼き尽くした。鎮火したのは、火災発生から約12時間後の翌18日午前3時頃であった。

鳥取測候所の記録によると、4月17日午後3時の気温は25.3℃、湿度は、28%と極めて乾燥した状況であった。そこへ風速10.8mの南南西の強風が吹き付けており、一度発生した火は瞬く間に燃え広がっていった。

午後7時、火の手が鹿野街道に迫った頃、風速は5.5mに弱まったが、午後11時には風速13.5mを記録し、鑄物師町（現、寿町）の西中学校まで延焼した。

翌18日午前2時頃、雨が降り始めた頃から火勢は弱まり、午前3時頃によりやく鎮火した。

火災発生の原因は諸説あり^{*2}、2カ月に及ぶ捜査が行われ、1千人以上の関係者が取り調べを受けたが、出火原因の特定には至らなかった。

被害の状況

この大火による被害は、死者2人、負傷者3,966人、罹災者数は2万4千人に上った。焼失建物は個人の家屋5,228戸、公共営造物・会社銀行等510棟（官公署14、学校5、病院その厚生施設5、



市営動源温泉での消火活動



空撮された鳥取大火後の市街

大火翌日の4月18日、米軍によって空撮されたものと推察される。



灰じんと化した鳥取市街

左側の焼け残った建物は、五臓圓薬局

*1 動源温泉付近から出火する前に、裏手の空家から出火（ただちに鎮火）している。

*2 原因の一つとして蒸気機関車からの飛び火が疑われたが、確証は得られなかった。



五臓圓薬局
二階町通りから撮影



市街地の焼失状況

片原にあった中国電力鳥取営業所（現在の
中電ふれあいホール付近）から望む。



類焼を免れた寺町の町並み

上部中央の白い建物が富士銀行。その北東
側の民家や寺院は類焼を免れた。

銀行8、百貨店1、映画館3など）で、
被害総額は193億2,639万円（推定）に
上るなど、戦後では国内最大級の火災
となった。^{*3}

被害状況で特に目立つのは、住宅家
屋と商業関係施設である。罹災世帯の
うち大半を占めていたのが商店や工場
などで、鳥取市の商工業に壊滅的な打
撃を与えた。

焼失区域が広範に及んだのは、火元
の火災が飛び火して16カ所^{*4}で新た
な火災が発生し、それぞれ燃え広がっ
たこともある。また、防火帯の役割を
果たしていた袋川を越えたことで、智
頭・鹿野街道の中心部を焼き、被害を
大きくした。当時、袋川に沿って、昭
和18（1943）年の鳥取大震災後に建て
られた応急仮設住宅（バラック）が並
んでいたことも影響した。

^{えびす}
戎町の富士銀行（現在の島根銀行付
近）、二階町の五臓圓、西町の鳥取図
書館はいずれも鉄筋コンクリート製で、
猛火に耐えた建造物である。一方で、
駅前通りの一部は、市民のバケツリレ
ーにより、延焼を防ぐことができた。

復興の開始

西尾愛治知事は、火災の発生と同時
に県庁内で善後策を協議し、災害救助
法の規定に基づき、鳥取県災害救助隊
及び災害救助対策本部を設置した。ま
た、同本部から入江昶^{あきら}鳥取市長に対し、
災害救助隊鳥取支隊の要請が行われ、
災害救助態勢が整った。

*3 『鳥取市大火災誌（災害救護篇）』（鳥取県庁・鳥取市編、1952年刊）

*4 「第四回 延焼等時線」（『昭和27年4月17日 鳥取大火と気象概報』、鳥取測候所）

4月18日の午前0時、鳥取県からの要請に応じ、警察予備隊^{*5} 米子部隊203名が鳥取駅に到着し、市内各所で救助活動を行った。政府内にも鳥取市大火災害対策本部が設置され、救護と復興対策についての協議が開始された。建設省には、本県出身の中田政美事務次官^{*6}、石破二郎計画局長が在職中であったが、相次いで来鳥し、早期復興に尽力した。

防火建築帯

復興都市計画にあたって、1) 火災防止の役割を果たした土地区画整理、2) 水量・水圧が十分な上水道の整備、3) 消防活動を妨げないための街路整備が盛り込まれた。中でも若桜街道は、耐火建築促進法による防火建築帯設定の全国第一号の指定を受け、鉄筋コンクリート2・3階建ての近代的な商店街へと生まれ変わった。さらに、鳥取駅から県庁までの約1.3kmの通りを22mに拡張し、災害に強い街づくりの建設が行われた。



復興した若桜街道（昭和30年代）

コラム 写真整理に潜む落とし穴

鳥取県立公文書館は鳥取大火関係の写真316点を所蔵しているが、その大半は紙焼き写真である。貴重な写真を活用するためには、撮影日時や場所を特定することが重要だ。下の写真は、建物の屋上から遠くの炎を眺めている人々をとらえたものである。擬洋風の建物が写っており、当時を知る方に尋ねると「炎と煙の方角から吉方辺りの建物ではないか」とのことだったが、場所の特定には至らなかった。

しかし、大火関係の写真の整理を進めていくと、よく似た建物の写真が出てきた。2枚を比べると、建物の左右が逆である。先に述べた写真はおそらく印画紙に焼き付ける際、ネガの表と裏を取り違えたと思われる。いわゆる「裏焼き」である。表現上の技法として用いられることもある「裏焼き」は、写真の印象を大きく変える。

「写真は対象を正確に写し取る」——。そんな思い込みが“落とし穴”になるという教訓である。



左の写真は裏焼きされたもの。右は左右を反転させた正しい画像。中央の建物は、中国電力鳥取営業所（片原）と判明した。

*5 警察予備隊は昭和25（1950）年10月に組織され、同27年10月には保安隊に改組された。

*6 中田政美は、八頭郡八頭村（現八頭町）出身の官僚で、昭和27年10月に衆議院議員となった。